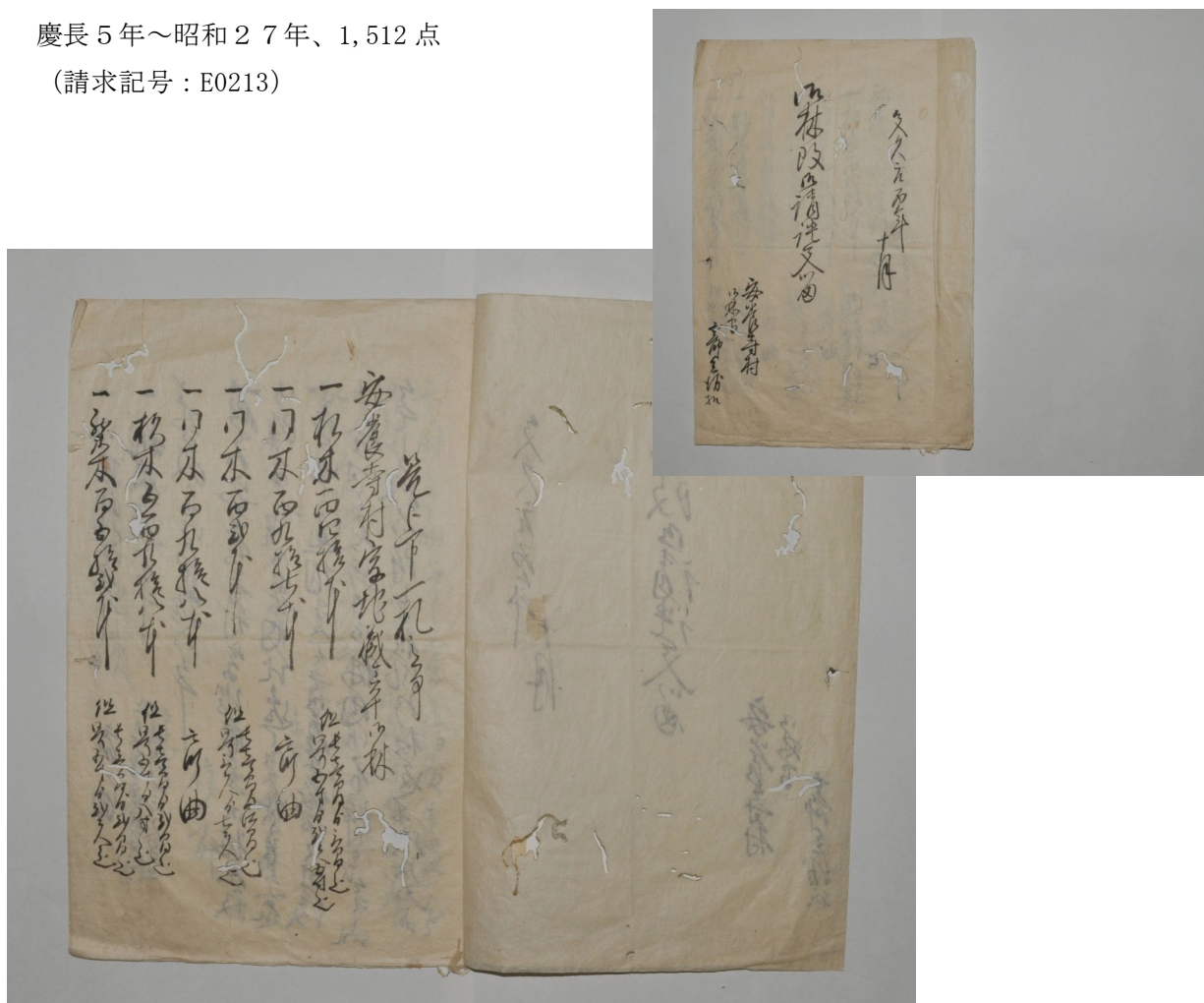


佐渡国安養寺村大蔵家文書

大蔵家は代々安養寺村の名主や組頭を務める家柄であり、明治初年には副戸長、その後吉井村の村会議員などをつとめている。3分の2は近世文書であるが、村役関係では慶長5年や元和・元禄の「検地帳」(慶長5年は写)などがある。そのほか年貢や人足関係の割帳類、また村役交替の節の「文書引渡目録」も見られる。また同家は幕領山林の御林守も務め、この関係の文書も目立つ。文化末年から文政にかけて吉井本郷真言宗大聖院の後任住職をめぐる訴訟が起こるが、この関係の一紙文書がまとまって残っている。同家の経営関係文書については、寛政年間頃から質地証文などが見られるようになるが数は多くはなく、幕末から明治初期にかけては「大福万覚帳」や冠婚葬祭関係の帳面がほぼ揃っている。明治期以降については、戸長役場関係文書のほか、金沢高等小学校関係や吉井村議会の書類なども見られる。

慶長5年～昭和27年、1,512点

(請求記号：E0213)



文久元年10月 御林改御請証文留帳